



KUSHIRO WEST ROTARY CLUB 2012~2013 (平成 24 年~25 年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和 45(1970)年 6 月 8 日 承認 昭和 45(1970)年 6 月 10 日

2013~2014 RI テーマ 「ロータリーを實踐し、みんなに豊かな人生を」



《例会日：毎週月曜日 12:30~13:30》

《例会場：釧路全日空ホテル 釧路市錦町 3-7》

会長 那知 哲 幹事 山本 秀基

■クラブ事務所■

釧路市幸町 14 丁目 1-1 ノースコートサンスイ 2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

《本日のプログラム》 7 月 22 日 12:30

普通例会

会員卓話

《次回のプログラム》 7 月 29 日 12:30

普通例会

会員卓話

2013 年 7 月 22 日(月) 第 3 回 通算 2015 回

【点鐘】 那知会長

【ロータリーソング斉唱】 「それでこそロータリー」
ソングリーダー：真岩 会員



【お客様と来訪ロータリアンの紹介】 釧路ロータリークラブ 甲賀伸彦 君

【会長挨拶】 那知会長



みなさん、こんにちは。本日は、裁判員裁判について話をします。裁判員裁判は、国民の司法への参加と裁判に市民感覚を反映させるという意図のもとに 2009 年から実施されましたが、死刑判決を言い渡した裁判員を務めた 60 代女性が公判後にストレス障害と診断されたことが報道されましたので、それについて御紹介します。

強盗殺人罪などに問われた男に死刑判決を言い渡した今年 3 月の福島地裁郡山支部の裁判員裁判で、裁判員を務めた福島県の 60 代女性が公判後にストレス障害と診断されました。女性は「審理で見た血みどろの殺害現場のカラー写真がフラッシュバックする」と話し、国への法的措置などを検討しているとのことでした。最高裁によると、2009 年に裁判員制度が始まって以来、裁判が原因で裁判員経験者が精神疾患を発症し、規定に基づき公務災害と認定された事例はないとのこと。裁判員の精神的負担はこれまでも懸念されてきましたが、実際に精神疾患の事例が出たことでサポート体制の充実などが求められそうです。関係者によると、女性は判決日を含む 6 日間の公判全日程に参加し、殺害現場の写真をモニターで見た 3 月 4 日には休廷中に嘔

吐した。その後も食事がのどを通らず、脳裏に写真がフラッシュバックして就寝中に何度も目が覚めるといった症状が、毎日のように出たとしています。判決後、裁判員経験者の相談に応じる最高裁の窓口を利用したが症状は改善せず、県内の病院に通院。3月下旬にストレス障害と診断され、現在も治療を受けている。女性は過去に精神疾患になったことはないといひます。

福島地検は「真実を伝えるため必要最小限のカラー写真を見せたのは事実」とする一方、女性のストレス障害は「承知していない」としています。審理では写真のほか、被害者が助けを求める119番の音声も流れ、判決後の記者会見では、複数の裁判員経験者の精神的負担が大きかったと話したそうです。殺害現場の写真が審理のために本当に必要だったのか、写真が必要としても刺激が少ないやりかたができなかったか、今後事前にこのような事件の裁判員を避けるような方法がとれないか、裁判員裁判が今後も制度として必要か、議論されるべきと考えますが、皆さんいかがでしょうか、時間がありましたら考えてみてください。

【幹事報告】山本幹事



10月11日～13日 地区大会が開催されます。これに伴い10月11日パークゴルフ大会が西クラブの担当となっていますので、例会終了後の理事会で実行委員を決めたいと思います。

■ 高木会員 退院後のご挨拶



退院（3ヶ月）後の那知会長年度の初例会出席に伴いご挨拶をしていただきました。

■ 委 嘱 状



国際ロータリー第2500地区より、石川会員・三木会員へ委嘱状が届いております。本日は石川会員につきましては欠席のため、三木会員へ那知会長より委嘱状をお渡ししました。

【委員会報告】

- 例会運営委員会 張江委員長
平成25年度8月例会プログラムのご案内
- 地域発展委員会 佐久間委員長
7月12日（金）大楽毛海岸ハマナス群落修復事業の参加報告（6名参加）

■会員卓話 一年間を振り返って『坂口祐二直前会長・三木克敏直前幹事』

《坂口祐二直前会長》



「1年を振り返って」というテーマですが、私の場合、入会から会長になるまでの話をしなくては会長の1年が繋がっていきませんので、入会当初のころの話から始めさせていただきたいと思います。

2002年の1月に入会して以来、ロータリーの例会に出席したいと思ったことはほとんどなく、佐藤和彦エレクトから「那知会長よりも坂口さんの方が例会出席率は悪いよ」と断言される不良会員だったのですが、それでも委員長になるとその

最低限の責任は果たさなくてはと思い、昔、人間尊重委員会というのがありまして、地域発展委員会と合わせて献血担当の委員長を3回、新世代委員長を2回やっておりまして、献血と柔道、バレーボールだけはある程度きちんとやってきたつもりです。また、これはみなさん、意外に思うかもしれませんが、2004～2005年度には副幹事に任命されまして、この年は例会の司会の役割がありましたので、1年間ほとんど例会を休まずに出席しました。それでも実はいつ退会しようかなとずっと考えておりました。確か40周年の時だったと思うのですが、1年ぶりくらいにロータリーに出席して、その懇親会で、「ずいぶん元気な女性会員がいるな、この人は誰だろう?」と思っていたら、それが櫻田会員でその時はじめて名刺交換をしたのを覚えています。さらに「大鵬」で家庭集会があった時に焼肉につられてこれも久々に出席したら、隣に見たことのない男性が座っていて、のちにそれが佐久間さんであることが分かりました。

そんな私ですからまさか自分が会長になるなんてことは頭の中に微塵もなかったわけですが、実はその前に伏線がありました。石川会長年度に私は新世代の委員長だったのですが、やはりずっと例会を欠席していたところ、石川会長から直々に「今度の例会で会員卓話を頼むよ。テーマは『坂口会員を解剖する』だからね」と連絡がありまして、卓話をしたのですが、おそらく、私に例会に出席するきっかけを与えてくれたのだと思います。そして翌年の加納会長年度に副会長を仰せつかりまして、正直なところ「幹事より楽かな?」という安易な気持ちで受けまして、次の年からまた休憩しようと思っていた矢先に、当時の石川会長から会長の話をいただいたわけです。その時の私の心の声は「えーっ! 順番が回ってくる前に退会しようと思っていたのに、こんなに早く?」でした。それでもこんな私でも西クラブの危機が迫っていることは理解できましたし、もともと悩む性格ではないので、その場で受けることにしました。

さて、そこからです。欠席続きの不良会員ですから、会長というのは何をすれば良いのかも分かりませんし、幹事がなかなか決まらずに困っていたところ井岸さんが「よし、幹事は俺がやってやる」と怖い顔で言ってくれたものですから、後はなるようになるだろうと思い1年間やって来ました。佐藤雅之副会長、三木副幹事と4人で組織、予算などクラブ活動計画書を何とか間に合わせ、7月第一例会を迎えることになりました。前にも話しましたが、当日、自分としてはかなり早めに例会場に到着したつもりでしたが、その時すでに、張江さんや谷口さんなどの大御所が受付付近で準備をしてくれていて、本当に有難かったのと、その時「1年間やっていける」と確信したのを今も鮮明に覚えております。もうひとつ気持ちが楽になったのは4月に第1回の会長・幹事会があったのですが、出席する前は「他のクラブの会長はみんなロータリーを良く分かっている、ロータリーの申し子みたいな人ばかりなんだろうな」と少し不安があったのですが、いざ出席してみると、長江ガバナー補佐をはじめ、他の会長さんたちも、どうして良いのか分からない暗中模索のなかで、準備をしているのだと分かり、むしろ出席者の中で井岸さんが一番偉そうにしていたので、かなり気が楽になったのを記

憶しております。

そんな感じで1年がスタートし、各クラブへの表敬訪問、ガバナー公式訪問と続いたわけですが、表敬訪問は井岸幹事が体調不良のため、三木当時の副幹事が一緒に回ってくれました。ただ、ガバナー公式訪問だけは井岸幹事が入院中にもかかわらず、「これだけは俺が出なければだめだ」と言って当日、痩せて真っ青な顔で出席してくれたのですが、途中で倒れはしないだろうかと気が気でなくて、正直、私の気持ちは公式訪問どころではなかったのを覚えています。そんな感じで2カ月ほどが過ぎて、問題のライラセミナーです。最終日の日曜日にちょっと携帯から離れている間に雅之さんと和彦さんからの着信が何度もあり、当時、入院中の井岸さんに何かあったのかと思い、恐る恐る電話をかけると、ライラで不祥事があったと、最初は説明を聞いても予想もしてないことですから、状況があまり理解できなかったのですが、だんだんとその時の状況が呑み込めてきて、これは大変だとガバナー補佐に連絡をとったり、状況把握に努めたわけですが、次の日の朝に加害者本人と網走西クラブの会長、幹事など数名が、釧路に謝罪に来ました。そこまでは、まだ良かったのですが、その後の地区の危機管理委員会の対応、網走西クラブの対応は全く理解できないものでした。10月の北見での地区大会の時に地区のライラ委員長に、この方は網走ロータリークラブの所属で、偶然、私の知り合いだったので、この委員長にライラのその後のことを尋ねると、ことの重大性を全く理解できていなくて、「あきれでもの言えない」とはまさしくこのことだと思いました。その後も網走西クラブとは様々なやり取りがあったわけですが、迅速性、誠意など感じられず、こんなことは言いたくはありませんが、ライラを主幹した網走クラブといい、網走西クラブといい、網走という地域性がおかしいのかと疑りたくなる程でありました。

加納直前会長から「表敬訪問と公式訪問が終わると半分終わったような気持ちになるぞ」以前から言われており、全くその通りだなと思いながら、ライラのことを除くとますます順調に月日が流れていったのですが、そろそろノミニーを決めなくてはならない時期がやってきました。会長を受けた時点からノミニーのことは考えていたので、あとはどうやって口説き落とすかを考えていたのですが、変な小細工をするよりストレートに正面突破を試み、最初は受けられない言い訳をグダグダと言っていたような気がしますが、そんなことは無視してゴリ押しをした結果、快く佐藤和彦さんが受けてくれました。受諾の挨拶の時に私に脅されたみたいなきことを言うておりましたが、彼はそんなことで動揺するような男ではないので、くれぐれも誤解の無い様にご理解願います。そのしっぺ返しと言うわけでもないのですが、12月のクリスマス家族会でチャリティーオークションのセリ人の役が回ってきました。前年もやっていましたが、まさか会長の時はないだろうと思っていたのですが、そんなの関係なく、セリ人をやることになりました。和彦さん、私は決して好きでやっているのではないので、これまた誤解の無いようにお願いします。年が明けてチャリティーオークションの益金を櫻田社会奉仕委員長とまりも学園に寄付に伺ったのですが、カメラをもって行くのを忘れ、その証拠写真が残っていませんが、決して二人で美味しいものを食べてしまったわけではなく、間違いなく寄付をしております。

そんなドタバタの中、あっという間に1年が過ぎたような気がします。前年度「教育」をテーマにやってきましたが、まだまだ、足りないことはあったにせよ、そちらの方はなんとかうまくやれたほうかなと思います。最大のテーマである「会員増強」が思ったようにできず、心から反省しております。会長職を終えても引き続き会員増強には取り組んでいきたいと思っております。1年を終えて「会長をやった良かった」と心からそう思えます。あの時、石川さんが私に会長の話をもって来てくれてなかったら、今ごろ、理事会で「坂口会員退会の件」という議題が上っていたかもしれません。石川さんには何度となく私を拾っていただいて本当に感謝しております。

最後に、副幹事から急きょ幹事に昇格という事態にもめげず、幹事を全うしてくれた三木幹事、とてもネットワーク良く動いてくれた佐藤雅之副会長はじめとする西クラブの皆様へ感謝を申し上げて終わりたいと思っております。1年間お世話になりました。ありがとうございます。

《三木直前幹事》



みなさん、こんにちは。一年間、本当にありがとうございました。井岸会員が亡くなり、急遽二度目の幹事のリリース当番と相成りました。坂口丸出港に際し、井岸さんは病床にあったわけですが、私自身、井岸さんが亡くなるなどはまったく思ってもおりませんでした。必ず元気になって、そしてあの毒舌が続くものだと思っていました。

石川年度の終わりになりますが、若手会員数名で井岸さん宅にお邪魔をしたことがあります。井岸さんと石川さんが中心になって、朝からたくさんの料理を作ってくださいました。聞けば、井岸さんは料理が得意とのこと、元々は料理人になりたかったとおっしゃっていました。普段見せる顔とは違い、その時の井岸さんは、こう言っただけ失礼ですが「好々爺」といった感じであったことが強く印象に残っています。

それから少ししまして、IMの打ち合わせか何かの後の席だったと思いますが、スナックで、酔った勢いもあって井岸さんに質問をしたことがあります。「井岸さん、奥さんをどうやって口説いたんですか?」「うるさい!」と怒られるかと思ったのですが、井岸さんは目を輝かせて、その馴れ初めを話してくれました。病院の受付の奥さんに一目ぼれして、猛アタックをしたそうです。でも、井岸さん自身は、奥さんのお父さんが反対すると思っていたそうで、ところがお父さんが賛成をしてくれて、それを今でもとても感謝している。「それが、父さんが賛成してくれてよ、あの時は、本当に嬉しかったなあ…」目を細めてそう語ってくれました。「ああ、井岸さんは、本当に奥さんのことが大好きなんだなあ」そう思いました。「だったら井岸さん、もう少し奥さんに優しくしたらどうですか?」などと重ねて失礼なことを言うと、ただ黙ってニヤリと笑ったことを昨日のこのように思い出します。

坂口丸出港の準備に向け、入院なさっていた井岸さんの病室を何度か訪ねましたが、ロータリー関係の資料が山積みになっていまして、本当にロータリー活動が三度の飯よりも大好きな、ザ・ロータリアンであったと思っています。第一例会、それにガバナー公式訪問の際に、気力を振り絞って例会に出席なさっていました。正直言います、副幹事、そして最初の幹事時には井岸さんに随分とお叱りを受けたりもしましたし、坂口丸出港の準備に際しても同様でした。でも、それもこれも西クラブを思っただけのことでしょうし、入会して月日が流れ、私も段々と言いたいことを言うようになりまして、「井岸さん、そこまで言うことないんじゃないですか!」などと反論をすると、ニヤッと笑って無言でそれを受け止める井岸さんが好きでした。

前年度の幹事を振り返ると、一にも二にも井岸さんの存在に尽きます。私の紹介者は石川さんであります、ある時、「ロータリークラブの説明をするから、ちょっと来い」と言われて事務所に伺いました。すると、そこに怖い顔のガラの悪そうな方、つまりは井岸さんですが、その怖い顔の方がにこっと笑って、入会届けに判を押さされて、そうして私のロータリアンの道が始まりました。お世話になった、怖そうでいて実は優しい、口うるさそうでいて実は面倒見の良い、そんな井岸さんを思ひ、井岸さんに感謝を申し上げ、そして坂口直前会長・佐藤雅之直前副会長に、みなさんに感謝を申し上げ、直前幹事の卓話とさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

《例会運営委員会 張江委員長》

7月22日	在籍数	27名	出席免除者	6名	出席義務者	21名	「編集:佐久間委員」
	名誉会員	1名	出席者	17名	欠席者	10名	出席率 63.0%

会報委員長: 大場 恵治 副委員長: 坂口 裕二
委員: 佐久間 好明 三木 克敏 小泉 和史